

3 歯科保健推進に向けた取組

(1)口腔機能を理解し、よく噛んで味わって食べる習慣をつけていきます

| ライフステージ | No. | 市民に期待すること (市民の行動目標) | 市の支援策 | 支援策(もしくは事業)の目的及び具体的実施内容 | 令和6年度評価 | | 関係部局 | アンケートの実施 |
|---------|-----|--|--|---|--|-------------|----------|----------|
| | | | | | R6年度の対象者、事業名、参加者数や事業実施回数等の実績数 | 達成度 5点満点 | | |
| 全体 | 24 | ・口腔機能を理解します。 | ・歯や口腔機能について正確な情報提供に努めます。 | 健康(=Wellness)を目指す過程(=Journey)を表現した「さやまウェルネスジャーニー」の取組や健康づくり講座、むし歯予防デー等で歯磨き、歯科健診の大切さを啓発します。 | むし歯予防デー 来場者数 305人 SAYAMA Wellness Journey(さやまウェルネスジャーニー)3回 | 5 | 健康づくり支援課 | 実施した |
| | | | | 口腔機能の基本的な、「食べる」「話す」「呼吸をする」など、口が持つ様々な機能のことであり、具体的には、咀嚼、嚥下、発音、唾液の分泌、表情を作るなどの機能となることを様々な機会でも周知をします。 | 糖尿病予防教室 9人 むし歯予防デー歯科コーナー47名 出前講座 19名 | 4 | 保健センター | 実施していない |
| 乳幼児期 | 25 | ・乳幼児の口腔の発育と機能について正しい知識や情報を得ます。 ・食生活や遊びを通して歯と口腔機能の発育を促します。 | ・健全な口腔機能の発育と発達を支援します。 ・乳幼児健診や地域の子育てサークル等で歯・口腔の正しい知識を啓発、情報提供を行います。 | ・健全な口腔機能の発育と発達を支援するとともに、どのような経過で高機能が発達していくのか正しい情報を発信します。 ・乳幼児健診や地域の子育てサークル等で歯・口腔の正しい知識を啓発、情報提供を行います。 | 乳幼児(4か月児・1.6歳児・3歳児)健診の歯みがき指導47回 2444名 乳幼児健康相談12回61人 びよんびよんるーむ6回12組 子育てプレイス等9回90人 ばくばくベビー6回52人 新狭山こどもフェスティバル1回8人 | 5 | 保健センター | 実施していない |
| 学童期・思春期 | 26 | ・口腔機能や歯周病について正しい知識を学びます。 | ・歯科衛生士による口腔衛生指導をする場を設け、歯・口腔の正しい知識を啓発します。 | 小学校における歯科保健衛生思想の普及啓発を目的として、歯科衛生士が、むし歯や歯肉炎の予防に必要な知識の伝達、及び歯磨き指導を行います。低学年には仕上げ磨きに関するリーフレットを配布します。 | 事業名：学校歯科保健指導 対象者：市内小学校4～6年生のうち、学校が希望した学年と特別支援学級 実施学校数：15校 実施クラス数：44クラス | 5 | 学務課 | 実施した |
| 成人期 | 27 | ・歯周疾患に関する知識を深めます。 ・歯周病と全身の健康の繋がりに関するの関連を知ります。 | ・健康教室等で口腔機能や歯科疾患予防について啓発します。 | 健康教室等で口腔機能や歯科疾患予防について啓発し、また歯周病と全身疾患の関連について周知をしていきます。 | 糖尿病予防教室 9人 むし歯予防デー歯科コーナー47名 | 5 | 保健センター | 実施していない |
| 高齢期 | 28 | ・オーラルフレイルについて学びます。 ・口腔機能を維持することに努めます。 | ・オーラルフレイルを予防するために口腔体操等を啓発します。 | 口腔機能は、加齢や疾患によって低下することがあり、食事や会話の困難、栄養状態の悪化、誤嚥性肺炎のリスクを増加を防ぐために口腔体操を推奨しました。 オーラルフレイルを予防するため口腔体操等を啓発します。 | 出前講座 19名 | 5 | 保健センター | 実施していない |